

11月30日大阪都構想の対案、大都市大阪のあり方を考える

2019年3月に出版した専門書ですが、ジュンク堂やAmazonでも宣伝していただきました。

11/1住民投票の結果、大都市大阪市の母都市としての役割を活かす道を再度探る事が選択されたと感じます。

松井市長から提案があった総合区は、都市の内部での分権=住民自治を高める有効な方法です。すでに橋下さんの改革で区長に裁量予算や区役所の人事権、教育次長として学校の分野にも権限を一部移譲して来ました。

総合区は区長が副市長と同じ権限を持ち、住民のリコールもできる制度です。大阪市を廃止せず改革を進める道筋を考えるために、もう一度皆さんにお勧めします。

[紀伊國屋書店 Web Store 大阪都構想の対案—大都市圏共同体の構想と総合区の活用—](#)

[Amazon.co.jp 大阪都構想の対案—大都市圏共同体の構想と総合区の活用—](#)

